

泉大津市社会教育委員会議

■令和4年度第1回会議の議事概要

日 時：令和4年5月30日（月）午後3時00分～4時45分

場 所：泉大津市役所3階大会議室

出席：車谷委員、木野委員、井上委員、岡崎委員、富山委員、祐仙委員、楠本委員

公開の有無：公開

傍聴者：なし

議 題

1. 議長・副議長の選出について
2. 社会教育関係団体補助金について
3. （仮称）泉大津市教育施設再配置計画について

報 告

- ① 社会教育委員会議等令和3年度実施報告
- ② 社会教育委員会議等令和4年度実施予定
- ③ 社会教育事業の概要
- ④ 社会教育事業の予算
- ⑤ 令和3年度図書館事業について

その他

- ① 第3次泉大津市文化芸術振興計画について
- ② 社会教育関係組織及び担当者一覧

議事概要

議題

1. 議長・副議長の選出について
 - ・社会教育委員会議規則第2条の規定に基づき、社会教育委員互選の結果、議長に車谷委員、副議長に木野委員が選出された。
2. 社会教育関係団体補助金について
 - ・事務局より社会教育事業の予算について説明。
 - 《主な意見等の内容》
 - 質問・意見等、特になし。
3. （仮称）泉大津市教育施設再配置計画について
 - 《議事進行》
 - ・事務局より（仮称）泉大津市教育施設再配置計画について説明した後に質疑、意見交換をおこなった。

《主な意見等の内容》

木野委員：はじめに南北公民館、勤労青少年ホームの現状については、老朽化・バリアフリー化への対応ができていないことが問題である。また稼働率が高い一方、アンケートでは80%の人が利用していないと回答している点も課題であり、令和3年度第3回社会教育委員会議でも意見を述べたところ。公共施設は安心安全を前提に、たくさんの市民の人々が利用できるように整備すべき。

新しい拠点施設の考え方については、ハブとなる拠点施設を中心に、学校施設内に社会教育施設機能を備えた地域交流ゾーンを配置することで、市域全体を学びのキャンパスにするということである。その方向性には大いに賛成する。次に、小中学校の改修工事等について意見を述べる。北公民館のある小津中学校区3校は現在設計や工事を進めており、早い段階で地域交流ゾーンの整備が可能と考える。一方、南公民館のある誠風校区については、楠小学校が令和8年頃に改修工事、穴師小学校が令和11年頃に建替工事のスケジュールとなっているが、両校ともにそのスケジュールを前倒しにする必要があるのではないか。南公民館の閉館時期との兼ね合いを十分に検討し、利用者が切れ目なく施設利用、また活動できるよう計画を進めるべきである。

最後に、拠点施設の整備位置について意見を述べる。本市市域がコンパクトである中、交通の便、駐輪場、駐車場など利便性が重要であるとともに、一定程度の広い敷地面積が必要であると考え。具体的な候補地として思い浮かぶのは、勤労青少年ホームと旧図書館敷地である。

祐仙委員：勤労青少年ホームを文化協会の一会員として使用しているが、南北公民館も含めて老朽化が顕著であり時代の変化やニーズの多様化に対応できなくなってきた。また利用者の固定化、高齢化も大きな問題として認識している。しかしながら、そういった利用者を切り捨てることは当然できないし、木野委員も意見していたように、施設再編の過程で、ある地域の住民はどの施設も利用できないといった事象が生じてはならない。現状の施設配置位置については、勤労青少年ホームと南北公民館は市域内の中央、南、北でバランスよく配置されていると思う。私は旭校区に住んでいるが、旭小学校で行った講演を通して他校区の人々との新たな出会いや交流が生まれた経験がある。拠点施設は、立地のバランス感を重視し、駐輪場、駐車場のある誰もが行きやすい場所として整備することが重要。施設再編のスケジュールであるが、施設を使えない利用者が生じないよう、必要に応じて決定していた施設の閉館日を延長するなど、柔軟な対応も検討してほしい。施設を利用できない状況は利用者にとって死活問題である。

楠本委員：私は北公民館利用者である。北公民館を廃止し拠点施設へ統合されるのであれば、その敷地はかみじょう認定こども園の園庭に活用してほしい。また、公民館利用者が近隣のかみじょう認定こども園、上條小学校を活用できるようになればよ

い。保育園、幼稚園の年代の子ども、小学生、公民館利用者など、幅広い世代が集まって楽しめる場に。そういった場ができるとコミュニティスクールも進み、現状PTAの保護者が担う役割や負担も、今後はコミュニティスクールの枠組みの中で解決できるようになるかもしれない。

公民館だけ、拠点施設だけではなく、その周辺の園校もひっくるめた施設整備をお願いしたい。

井上委員：小学生までの子どもとお年寄りが本計画の主なターゲットになっていると推察する。しかし、これまで公民館等の利用が少ない、大学生や現役世代の社会人などの層をどう取り込むかという観点が大事ではないか。また、市域がコンパクトとはいえ、足が悪いなどの理由から遠くにいけない人のことを思うと、交通の便についても考えないと、せっかく整備したのに利用されない施設になってしまう。そのあたりをきちんと考慮した未来の施設をつくらないといけない。

今後の人口減少など、これから起こり得る様々なことを検討したうえで施設を再配置するべき。既存の事象からだけではなく、新型コロナウイルス感染拡大など、これまでの経験にない予想外のことに柔軟に対応できる部分が、今後の施設整備には不可欠と考える。

岡崎委員：泉大津市民ではない市外在住者としての客観的な意見を述べる。人口減少は避けがたい全国的な流れ。そんな中、和歌山県上富田町は戦略的に様々な事業を実施することにより県下で唯一人口が増えている。そんな町の事例もあるので紹介をしておく。

人口減少に伴い税収が減少することを前提に作成された資料により説明を受けたわけであるが、資料記載の5つの基本方針※を示した際、市民にどのように思われるかを考えておく必要があるのでは。同方針については見せる順番や構成が大事であり、人口減少や税収減少の影響から生じた基本方針4はネガティブなもので、ポジティブな方針とは切り離して論じた方がよいのではないか。施設総量の圧縮は方針ではなく前提であって、そのうえで泉大津市が発展するためには複合化・多機能化が必須であるという考え方に立つべき。よって、基本方針1～3のポジティブな要素を前面に出し、これらの方針の実現に向けた計画であるという構成にするのがよいと考える。

また、人口減少もさることながら、例えばこれから20年先の新規移住者など住民層の変化等を考えても、今ある施設のままでよいはずがない。未来の泉大津市のビジョンの中での新しい施設として打ち出していくべき。併せて、20年先も市民が日常生活を送るうえで、社会教育施設の機能をどう保証するかの手立てについてもセットで説明する必要がある。泉大津市ではコミュニティスクールが開始され、社会教育施設と学校との連携が始まっているとの話も聞いている。

施設で水漏れが起こって利用出来ない等の場合は学校の教室を使えるといった手立てを、きちんと計画に組み込んでいくことが市民に安心感を与える要因になると考える。一方、学校行政と社会教育行政には、まだまだ大きな隔たりがあるとも感じていて、施設が使えなくなったから今から学校を貸してくださいとお願いしても、学校側はすぐに貸してくれないものと理解している。その隔たりを取り払ったシステムづくりも同時に進めるべきである。

※基本方針１…複合化・多機能化

同２…長寿命化・維持保全

同３…サービスの維持・向上

同４…施設の総量 15%以上削減

同５…共通理解と体制の構築

富山委員：泉大津市全体で財政改革を進めるうえでのコスト削減は理解するが、教育長はじめ教育委員会は、なぜ教育関連でこれだけのコストを削減する必要があるのかと強く主張していただきたい。また、集中してコストをかける部分がないと市の魅力がなくなってしまうように思う。

本計画では公民館等の施設を閉鎖して学校に地域交流ゾーンを整備するということだが、結果、市民の活動場所の減少につながるのではないかと危惧する。公民館等は稼働率が高いが、市民の大半が利用していないという現状にある。地域交流ゾーンをどう活用するかといった使い方改革の議論を計画策定のタイミングから実施するべき。運用開始後ではどうにもならない。このタイミングで議論できることをチャンスと捉え、ハード部分とともにソフト部分も同時に進行する計画とするべき。

学校としては使える場所が減ることになると思うが、地域の人が入ることで地域と学校の壁が取り払われ、子どもとの交流がさかんとなる学社融合・連携のような状況がつかれるとよい。

民間を活用した収益性のカバーができればよいとも考えており、例えば、１階を学習塾に貸し出し、２階に公民館機能をもたせるといったことも１つの方向性としてあってもよいのでは。

事務局：（小津中学校大規模改修工事を事例として補足説明）

地域交流ゾーンと学校校舎とは入口が異なるなど別セキリュティとしている。また同ゾーンは学校施設ではあるが、学校で使わない時間帯は公民館機能として地域の人が使えたいと考えている。多数用意するそれらの部屋を１つの区画に集約し、地域交流ゾーンのエリアとして整備する。例えば理科室については、学校が理科の授業などで使うが、地域の方は理科室として使う必要はない。集会室については、学校は学年集会等にて使う想定である一方、防音機能を備える予定であることから、地域の方が吹奏楽などの音楽活動にも使える部

屋となる。その他、工芸室・美術室も地域の人が使える部屋として整備する。今後、各学校にも同様の部屋を整備していくことで、南北公民館、勤労青少年ホームが閉館になったとしても建物はなくなるが、活動の面積は減らないものと考えており、継続して活動を行う機能として、また場所として十分に活用できるものとする。またそのハブとして新たな拠点施設を整備するということが本計画の目指す大きな方向性である。

車谷委員：各委員より、改めて拠点施設の場所選定についてのポイントを確認したい。

木野委員：利便性が重要。

祐仙委員：市域の端ではなく、中心地で誰もがアクセスしやすい場所を。

楠本委員：勤労青少年ホーム・旧図書館跡地、アルザなど。公民館ほか既存の社会教育施設の存在を知らない人も多い。多くの人が行き交う場所での整備が重要。

井上委員：多くの市民にとって行きやすく便利な場所に。

岡崎委員：拠点施設を中心に、各学校がサテライトのように配置されるのがよい。一方、ハード部分だけではなく、関係者の意識といったソフト部分も重要。小津中学校大規模改修工事資料を先生に見せると、地域交流ゾーンは学校の管轄外であると思われないか。地域交流ゾーンを含む学校は複合施設であり、市民が使用する公民館機能と学校機能が共存するというコンセンサスが大事。コミュニティスクールが始まっているのであれば、その協議や議論を学校運営協議会で行うとよいのではないか。

以前より、泉大津市はもっと外から人を呼んでくるべきと考えており、特に若年層に「社会教育施設は使える場所」と認識してもらうことが重要。今後の施設整備においては、新規利用者が入る余地を残すなどの運営上の工夫を。受益者負担はあってしかるべき。

富山委員：地域の人のためり場的なサードプレイスとしての施設整備が重要。それを学校と一緒に使用できるようになるのが理想的。多目的室で卓球を行うなら、地域の人と学校の子どもと一緒に楽しむといった事例が生まれるとよい。

車谷委員：南北公民館等を集約する時期の用途は。

事務局：令和８年度までには集約し、令和９年度からは拠点施設の運用を開始したい。

各委員：議題３について事務局より説明のあった方向性や考え方に対して、社会教育委員議として賛同する。

報告

①社会教育委員会議等令和３年度実施報告

《議事進行》

- ・事務局より社会教育委員会議等令和3年度実施報告を行う。

《主な意見等の内容》

質問・意見等、特になし。

②社会教育委員会議等令和4年度実施予定

《議事進行》

- ・事務局より社会教育委員会議等令和4年度実施予定について説明

《主な意見等の内容》

質問・意見等、特になし。

③ 社会教育事業の概要

《議事進行》

- ・事務局より社会教育事業の概要について説明したのち、大学連携事業に関わる各委員より補足説明を行った。

《主な意見等の内容》

岡崎委員：小学生向けの教材として「泉大津市×日高川町 SDGs 発見隊」を作成。泉大津市日高川町の両自治体の小学生の学習をカバーできる内容。令和4年度以降の環境学習体験事業にも活用していきたい。

富山委員：今年度は、子どもの体力向上推進プロジェクトを進めるとともに、運動部活動推進事業も実施。スポーツ庁が進める部活動改革について、インタビューなど、泉大津市のモデルを構築するための取組を進めている。

井上委員：機械仕掛けの計算機の企画展について、桃山学院大学学院史料室と連携して実施。連携企画展の実施が、計算機のコレクションを整理できる機会となったことから、本学と泉大津市双方にとってメリットのある取組となった。

④社会教育事業の予算について

《議事進行》

事務局より社会教育事業の予算について説明。

《主な意見等の内容》

質問・意見等、特になし。

⑤令和3年度図書館事業について

《議事進行》

事務局より令和3年度図書館事業について説明。

《主な意見等の内容》

質問・意見等、特になし。

その他

①第3次泉大津市文化芸術振興計画について

《議事進行》

- ・事務局より第3次泉大津市文化芸術振興計画について説明。

《主な意見等の内容》

質問・意見等、特になし。

終了 16:45